

「第19回全国教育研究交流集会in群馬」は・・・

—東日本大震災による中止とその後の取り組みについて

現地実行委員会（事務局長） 瀧口典子

3月11日午後2時46分…その時、私たちは群馬県教育会3階ぐんま教育文化フォーラムの部屋にいました。翌日から水上で開催される「第19回全国教育研究交流集会in群馬」に向けて最終打ち合わせを終え、水上に運ぶ資料や器材などのチェックをしていたところでした。ひどい揺れではありましたが、「明日は本番」と気を引き締めました。

同じ頃、水上温泉の会場「源泉湯の宿・松乃井」では、前泊の民主教育研究所・渡辺事務局長以下4人のスタッフと全群教教育研究所・松本美津枝さんが、準備の真っ最中でした。大きな揺れの中でも、明日を信じて受付の準備や会場づくり・作品展展示を進めていました。

その後の事態は、皆さんご承知の通り、未曾有の大震災・大惨事…、現地スタッフの議論の末、最終的には中止を決意せざるをえなくなりました。苦渋の決断でした。6月19日に第1回現地実行委員会をたちあげてから約9ヶ月の短い期間に、群馬ならではの魅力ある内容を準備し、必死に参加の呼びかけをしてきただけに、本当に残念で、なんだか体じゅうの力が抜けてしまったようでした。

この集會に寄せる群馬の思いは3点あったと考えます。まずこれを機会に群馬の風土と教育をとらえ直すこと。次に、その群馬の特色を全国に知ってもらうこと。そして群馬もまた全国のすぐれた実践や研究から学ぶことです。

現地実行委員会には11の研究団体が集まり、18の多様な団体から協賛をいただき、これまでにないネットワークが広がりつつありました。さらにマスコミ8社にとどまらず、群馬県と群馬県教育委員会、みなかみ町から

後援をいただいたことは大きな励みになり、利根沼田地域の小・中・高校の全教職員に案内チラシを届けることができました。集會への関心は日を追って高まり、宿泊予定者は171人、参加予定は200名をこえていました。

ここまでともに創り上げてきた現地実行委員、レポート提出者、分科会世話人、一般参加予定者などご協力いただいた多くのみなさん、本当にありがとうございました。

今、私は、集會のテーマを改めてかみしめています。「**貧困・格差に抗して—すべての子ども・若者に学ぶ喜びと生きる希望を！—自然・地域の再生と教育の探求—**」…東日本大震災と続く原発の危機の中で、この言葉がお題目でなく、日本国民全体の実践的な課題として、切実に迫ってきます。私たち一人ひとりに、何ができるのか、教育や文化の役割とちからはなにか、日々問われているのではないのでしょうか。

「第19回全国教育研究交流集会in群馬」を今後どうするかについては、現地実行委員会と民主教育研究所運営委員会は論議を重ね、次のような方向で生かしていくことになりました。これまで創ってきた事実を土台に、歩みを再開いたしましょう。

◆第19回研究交流集會の全体像を「記録集」にまとめる

◆公開座談会「自然・地域の再生を通して教育の未来をひらく—3.11を体験して考える—」を開催する

日時：6月18日（土）午後2時～5時

会場：前橋プラザ元気21（中央公民館）